

12. 田原坂公園南半部調査地

a. 調査地の位置と環境（第3図・第150図・第172図）

田原坂公園南半部調査地は、熊本市田原坂西南戦争資料館付近の場所である。資料館の北に隣接して昭和32年建設の「西南役戦没者慰霊之碑」があり、北半部より公園化が進んでいる。数回の造成工事に伴い、往時の地形は少なからず失われている。

付近の地形は聞き取り調査によると、昭和20年代頃の公園整備前は平地のない全体に緩やかな馬背状丘陵地で、「慰霊之碑」付近から南に向かって現在の駐車場まで緩やかに下降しており、樹木もまばらな荒地で草地には大小の岩が顔を出しており、人の背丈を超える大岩も点々とあったという。

また、「慰霊之碑」から資料館付近まで、園内通路とほぼ同じ場所に、高さ約1mの南北方向の畑の畔土手があり、その東下に道は通っていたが塹壕はなかった。さらには、資料館あたりはもとは2段畑で北側高段畑を削って旧福祉会館が建てられ、ゲートボール場も併設していたとのことであった。

田原坂西南戦争資料館建設に伴う舟底遺跡第6次・第9次調査では、北半は削平されてほとんど遺構は残存せず、聞き取り調査を裏付けることとなった。南半では中世の遺構遺物とともに、西南戦争関連の遺構として2条の道路状遺構を確認した。この道路は幅1mほどで浅い溝状を呈して南北方向に走り、北に向かって深さを減じながら、慰霊碑方向に向かっていった。聞き取り調査での南北方向の道は、この道路状遺構だろうとの教示を地元の方からいただいた。

b. 現地調査の成果（第172図～第176図）

現地調査は造成が進んでいる状況を考慮して金属探知機調査は実施せず、公園広場としても活用されていることからトレンチ調査も広場外周囲のみでおこなった。

(1) 遺構の状況

トレンチ調査 1Tは以前から「塹壕跡」と称されていたところで、確認のため調査した。その結果「塹壕跡」は幅50cmほどの断面V字状、北には延びず覆土も他調査地とは質的に異なること、西南戦争関連遺物の出土が皆無などの点からみて、慰霊碑建設の際など新期につくられた可能性が高い。2Tと3Tも同様に幅狭の通路状部分を掘り下げたが、遺構は確認できなかった。ただ地山が東から西に下降傾斜している様子が観察でき、旧地形の復元は可能になった。2Tの旧表土からは小銃弾が2点出土した。1T～3Tは造成後の現公園段差部分にあたり、調査結果をみても削平など旧来の地形の改変がある。

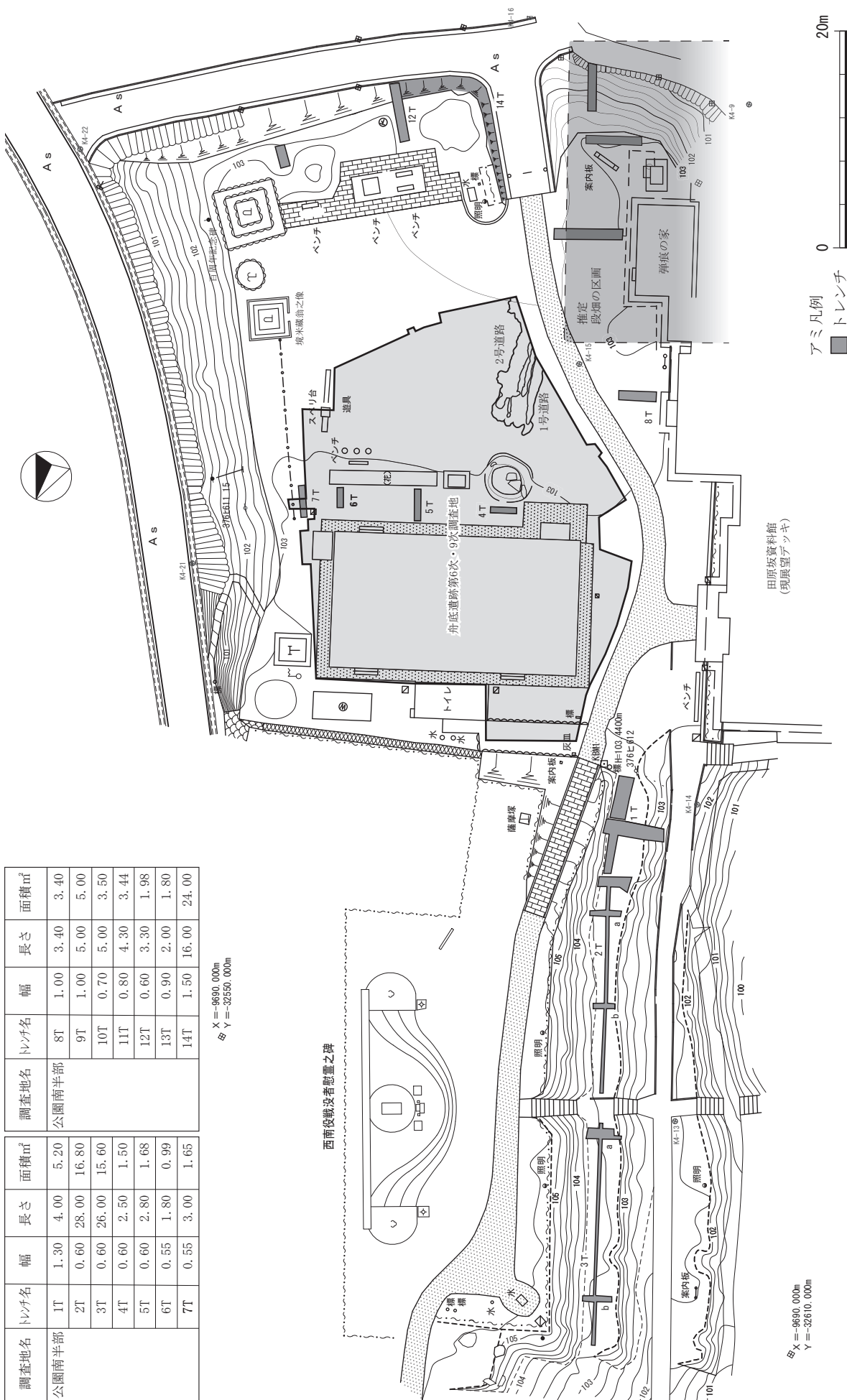
4T～7Tは公園広場北端部分で、すべて地山層が異なり解釈に苦慮したが、広場南端の12T～14Tの調査で地山層が東に向かって大きく下降傾斜しているのが確認され、4T～7Tの土層のあり方とよく整合した。もともと馬の背状だった地形を削平開墾して平畑にしたため、不均等に地山層が現出することが理解できた。これらのトレンチでは、西南戦争に関連する遺構遺物ともほとんど出土しなかった。

9Tでは埋められた畑を調査し、東端で畑の区画と基部幅84cm、高20cmの畑の畔土手を確認した。この畔土手は舟底遺跡第6次調査の道路状遺構と並行して、南北方向に延びると思われる。この畑は旧田原坂資料館建設の際に埋められたようだ。この区画段面の地山と土手内部や旧耕作土から小銃弾5点と四斤砲弾片1点が出土した。10T、11Tも同じ畑で、1.6mほど埋められていた。8Tは地山面までは浅く、段落ち畑は8Tと9Tの間で区切られた一角だけのようなものである。いずれも遺物出土はない。

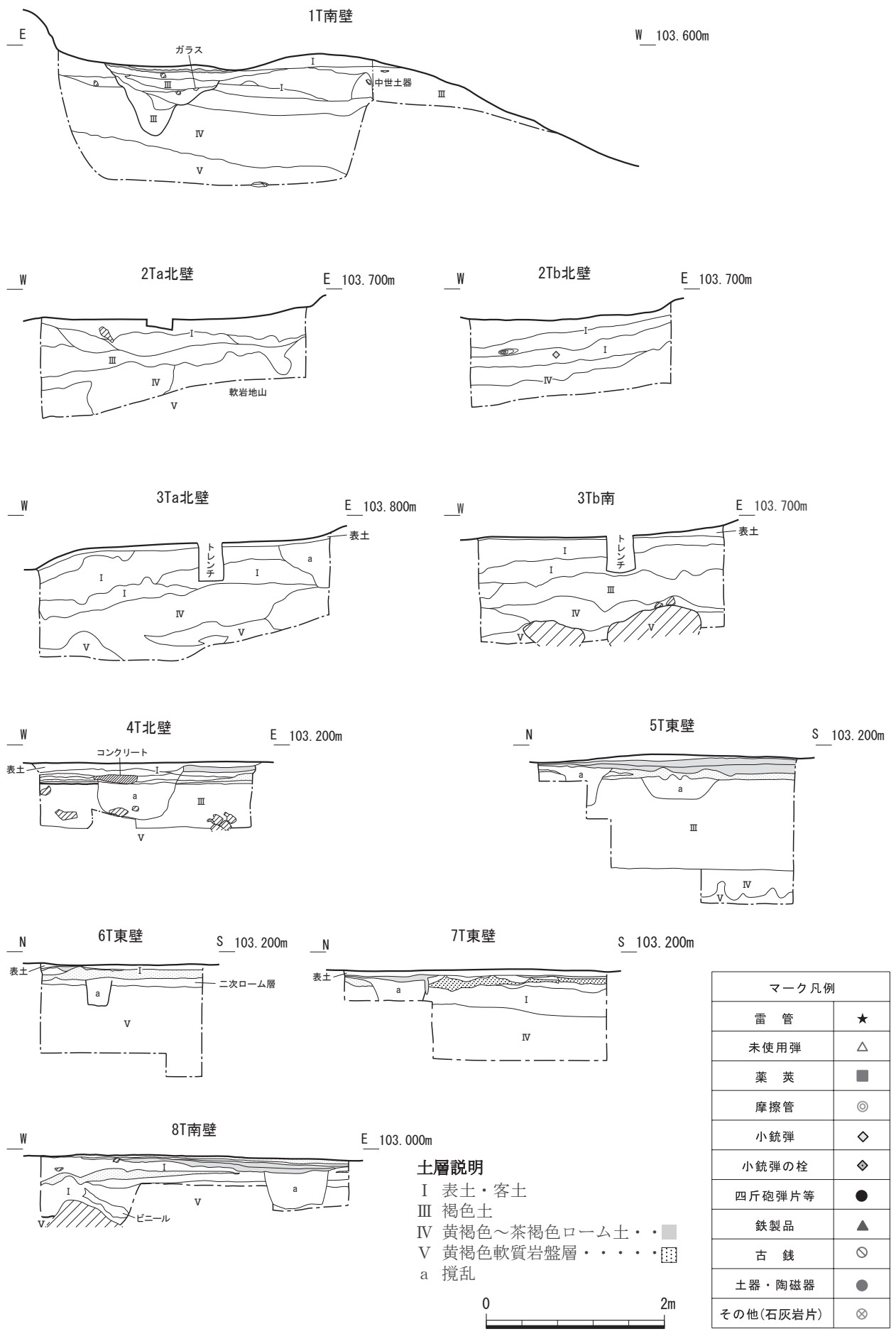
この9Tでの遺物出土状況は、この場所に陣地があり西方から攻撃されたことを示す。この段畑は本来は南北長30mほどと推定されるので、幅1mのトレンチで小銃弾5点と四斤砲弾片1点の出土からは、激しい攻撃を受けていたことが推定できる。資料館下西斜面からも多数の小銃弾が採集されたとの話とあわせると、この場所に地形を利用した、段畑畔土手胸壁と南北に行き来のできる道を備えた陣地が構えられていた可能性が高い。このあり様は植木町山頭遺跡第5次調査地5区の薩摩軍陣地跡と類似する。

調査地名	トレンチ名	幅	長さ	面積㎡	調査地名	トレンチ名	幅	長さ	面積㎡
公園南半部	1T	1.30	4.00	5.20	公園南半部	8T	1.00	3.40	3.40
	2T	0.60	28.00	16.80		9T	1.00	5.00	5.00
	3T	0.60	26.00	15.60		10T	0.70	5.00	3.50
	4T	0.60	2.50	1.50		11T	0.80	4.30	3.44
	5T	0.60	2.80	1.68		12T	0.60	3.30	1.98
	6T	0.55	1.80	0.99		13T	0.90	2.00	1.80
	7T	0.55	3.00	1.65		14T	1.50	16.00	24.00

⑤ X=-9690.000m
Y=-32550.000m



第172図 田原坂公園南半部調査地 全体図、トレンチ配置図 (1/500)

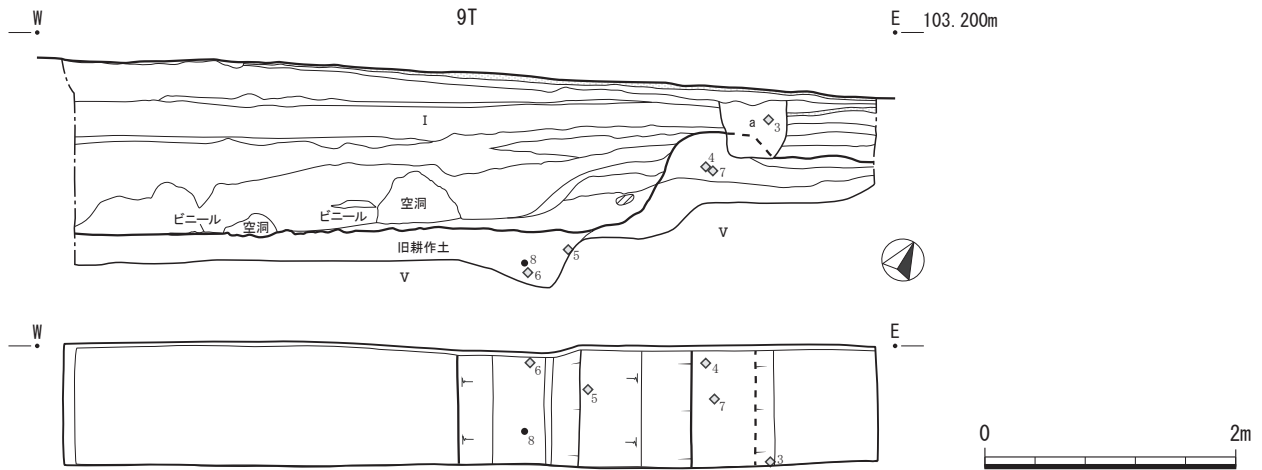


第174図 1T、2T、3T、4T、5T、6T、7T、8T断面図 (1/60)

c. 遺物

(1) 西南戦争関連遺物 (第177図)

薬莖の出土はない。小銃弾はスナイドル銃弾、2 TでP4・1点、A2・1点、9 TでA2・4点、B・1点の合計7点である。1と2は弾頭が少し凹むほか変形は少ない。3～6の変形は大きい。7は円台孔がやや短く、弾裾部が薄くめくれている。8は四斤山砲榴弾の底部片で1/4の大きさである。錆化が進んでいる。



第175図 9T 平面図・断面図 (1/60)



9T調査状況



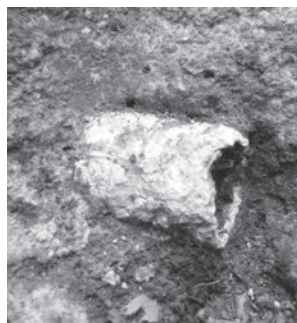
スナイドル銃弾 3



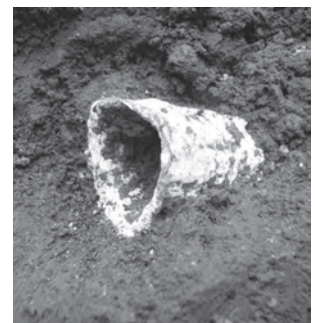
スナイドル銃弾 4



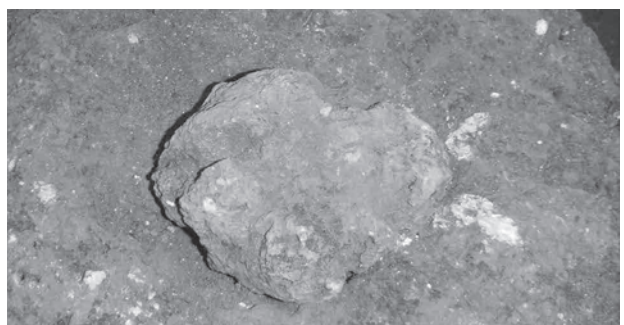
9T東端遺物出土状況



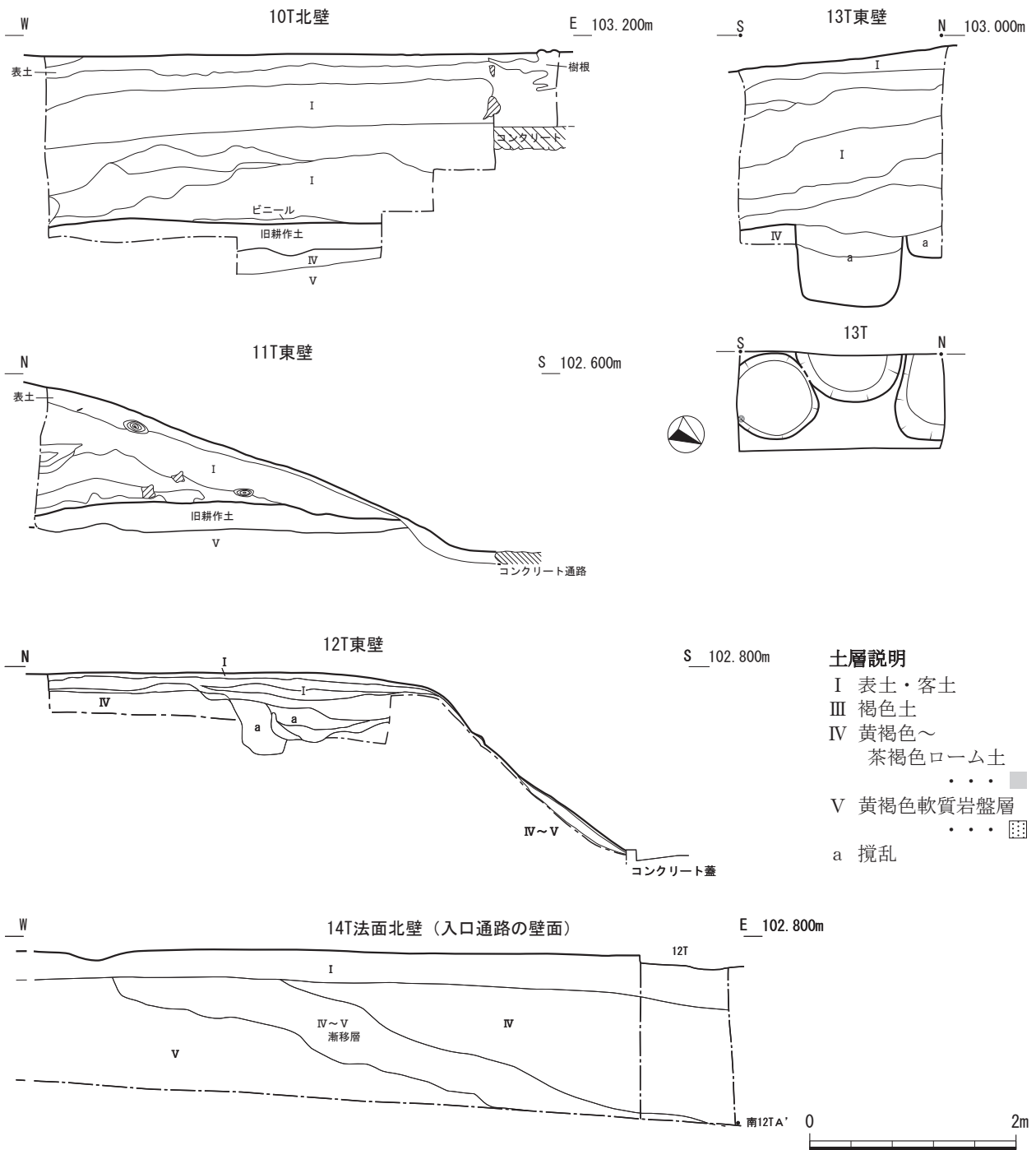
スナイドル銃弾 5



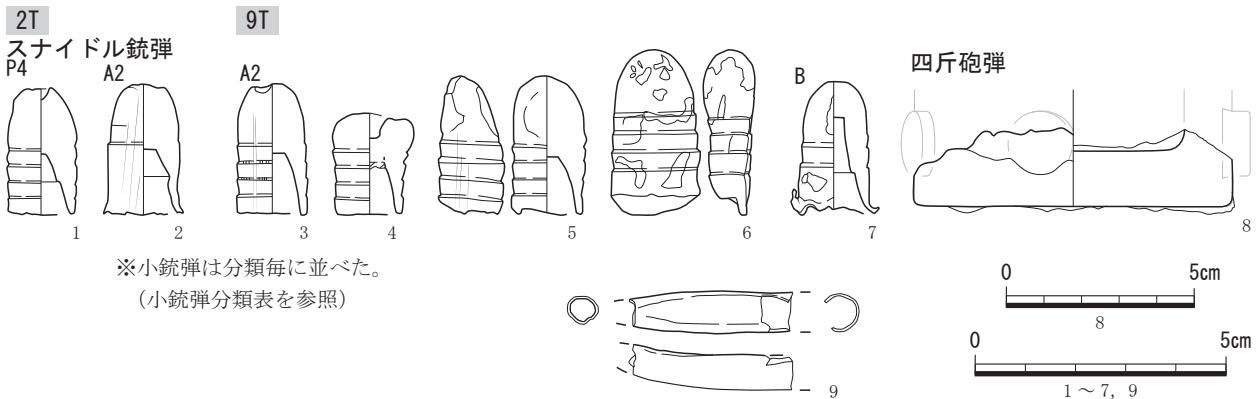
スナイドル銃弾 7



四斤砲弾 8



第176図 10T、11T、12T、13T、14T 平面図・断面図 (1/60)



第177図 トレンチ出土遺物

(2) その他の遺物

土器・陶磁器類 (第 178 図 1～第 179 図 15・第 180 図)

1～11 は中世後期～近世初期 (17 世紀前半) の瓦質土器である。うち 1～5 は調理具で、1 は挿鉢、2～4 は捏鉢である。5 の鍋には、外面に煤かとみられる薄い黒斑が認められる。8～10 は火鉢で、8 は、接合しなかったものの明らかな同一個体 3 片が同じ遺構 (13 トレンチ内の土坑) から出土したものである。胴部上位のクシ描き波状文は、熊本県中央・北部における 16 世紀～17 世紀前半の型式の特徴である。11 の香炉は、瓦質土器としては稀有な器種である。12～15 は近世 (江戸時代) の肥前産陶磁器である。

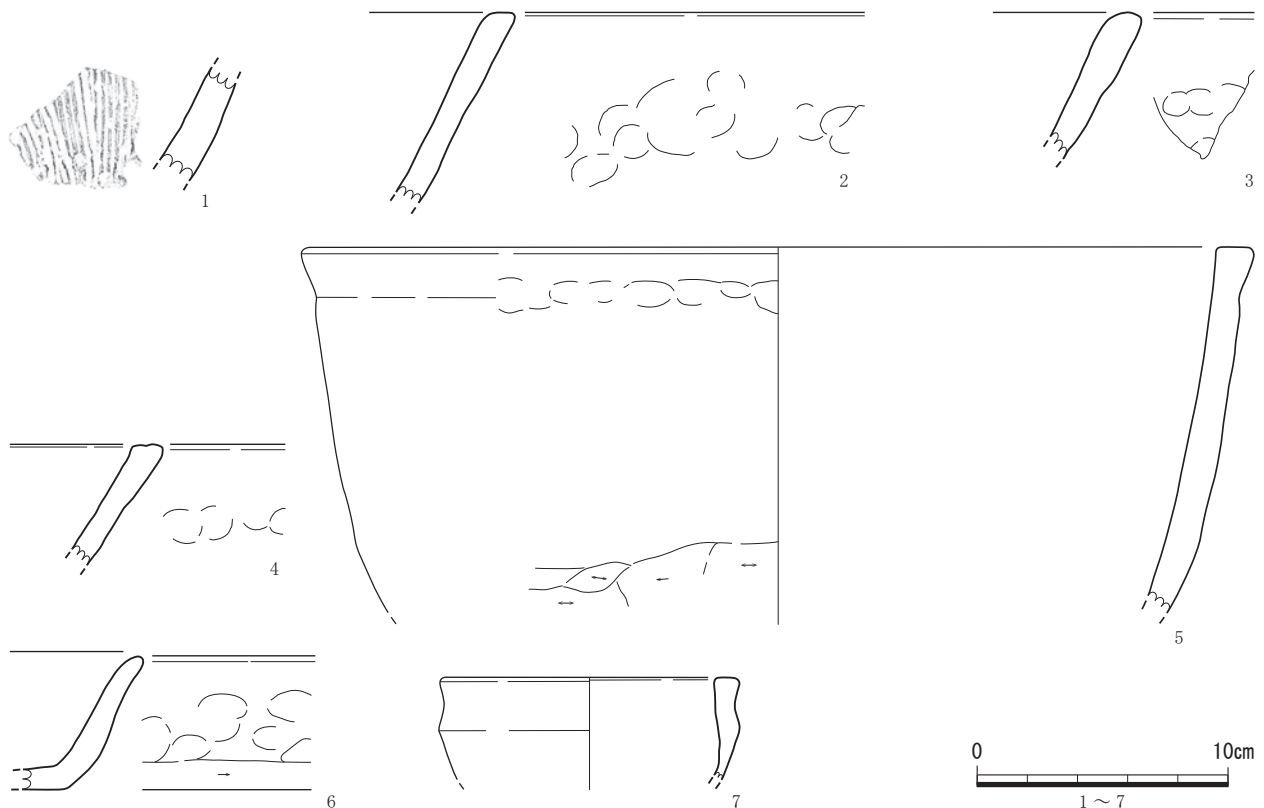
瓦質土器について特記する。瓦質土器が多いことは本調査区の特徴といえる。前述のように中世後期～近世初期 (17 世紀前半) の型式で、当該期の焼成形態は 12 の肥前陶器皿 (1610～1650 年代) の他は、未報告の細片を含めて全て瓦質土器である。本調査区と同じ敷地内にあつて、現熊本市田原坂西南戦争資料館建設に伴って調査した舟底遺跡第 6 次・第 9 次調査区出土品 (熊本市教委 2016) も同様である。当該期に近い時期の遺物は陶器細片 1 点 (17 世紀中頃の肥前産挿鉢) を除いて全て瓦質土器であり、器種は捏鉢・火鉢が主体を占め、他に挿鉢・甕が見られる (第 180 図)。通常の遺跡であれば多く出土する土師器・陶磁器の供膳形態が無いことも合わせ、明らかに偏った遺物組成といえる。遺構は掘立柱建物跡・柵跡・道路跡・瓦質土器の埋設土坑などが検出されており、道路跡を除いて重複が無いことから短期間の造営であったと考えられる。これらを受け、報告書では「一般集落と考えるより田原坂整備修築のための工人集落の一部の可能性」を指摘している。可能性として肯首すべき見解といえる。翻って同様の組成を示す本調査区の遺物群についても、少なくとも特殊な遺跡環境を反映したものと判断される。

銅製品 (第 179 図 16)

16 は足袋小鉤である。腐蝕が著しく、基部が欠失することから刻印等の有無は不明である。

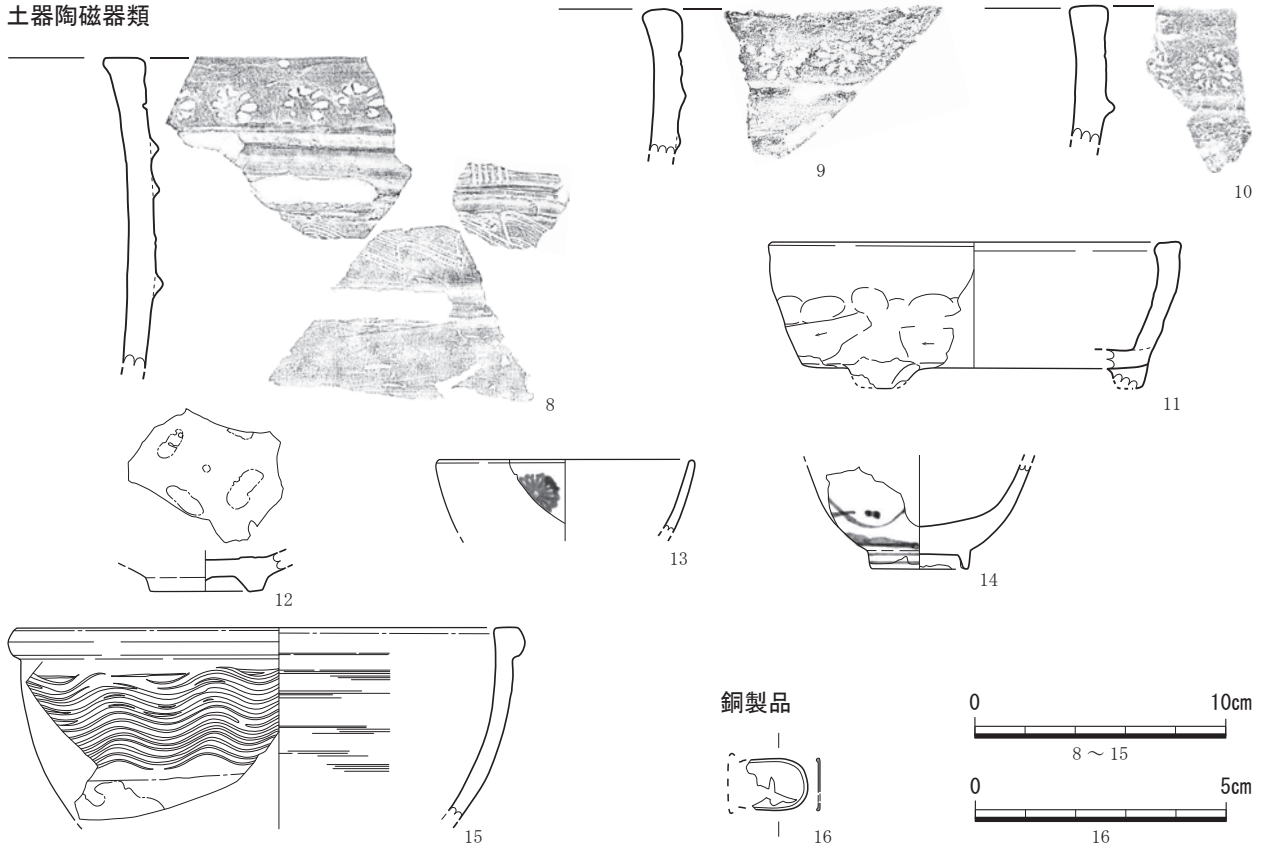
【参考文献】

熊本市教育委員会 2016 『熊本市の文化財第 57 集 舟底遺跡 I』

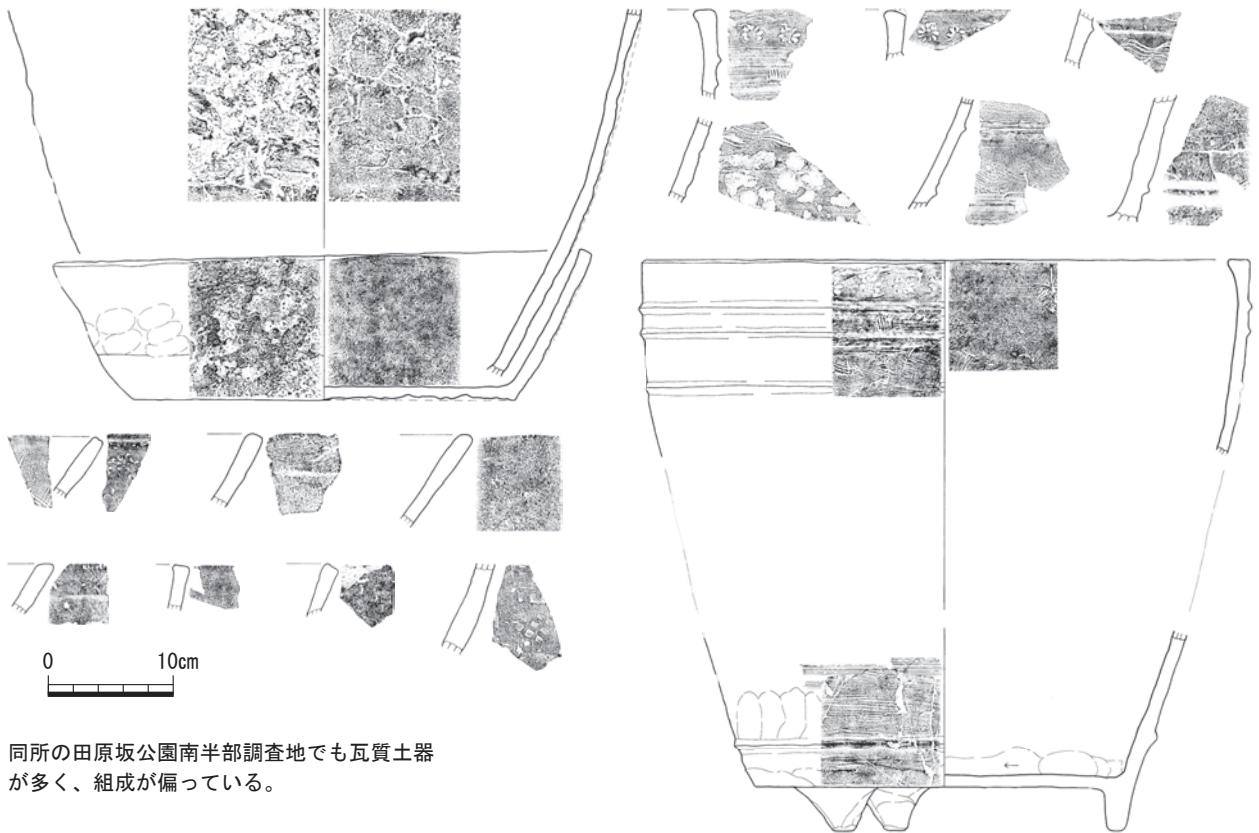


第 178 図 その他の遺物—土器・陶磁器類 1

土器陶磁器類



第179図 その他の遺物—土器・陶磁器類2, 銅製品



同所の田原坂公園南半部調査地でも瓦質土器が多く、組成が偏っている。

※熊本市教育委員会 2016『熊本市の文化財第57集 舟底遺跡Ⅰ』より転載

第180図 参考図 舟底遺跡第6・9次調査地の瓦質土器

公園南半部



4T (東より)



5T (北より)



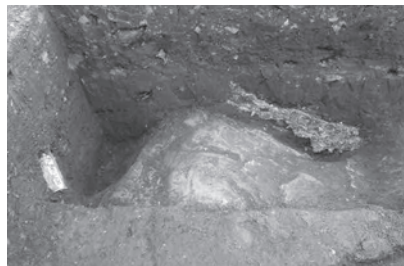
6T (北より)



7T (北より)



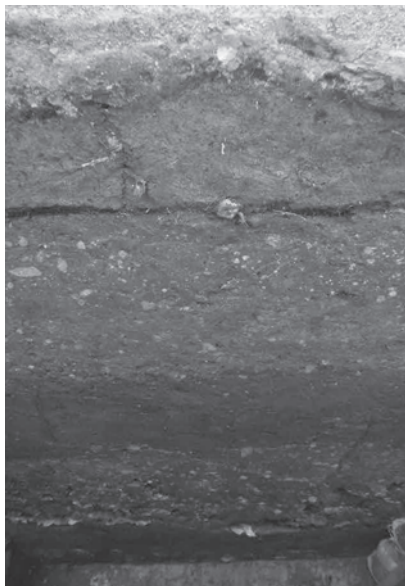
7T東壁



8T西端



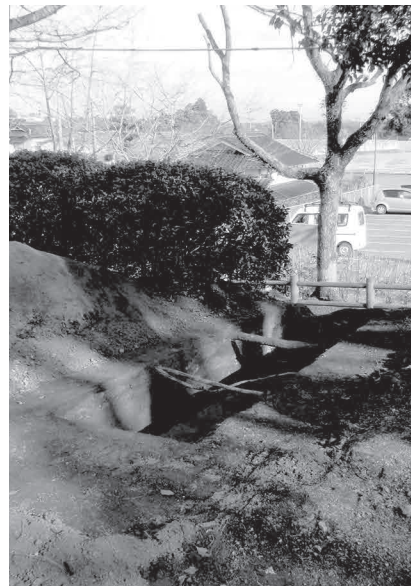
8T (東より)



10T (北壁)



11T (南より)



12T (北より)



第 17 表 田原坂公園南半部調査地 出土遺物観察表

スナイデル銃弾 (第 177 図)

挿図 No.	実測 No.	取上 No.	分類	圏溝			栓 材/色	腔綫 条	計測値(mm/g)			備考
				数	形	刻目			全長	最大径	重さ	
1	さ12	Y2	P4	4	丸	×	—	不明	25.0	13.0	31.4	2T
2	さ11	Y1	A2	2	鋸	×	—	5	25.0	16.0	26.6	2T
3	さ17	Y7	A2	4	鋸	○	—	5	26.0	14.0	28.5	9T
4	さ15	Y5	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	20.0	16.0	28.9	9T
5	さ13	Y3	A2	4	鋸	○	—	不明	27.0	15.0	27.3	9T
6	さ14	Y4	A2	4	鋸	○	陶/茶	不明	33.0	17.0	28.4	9T
7	さ16	Y6	B	2	鋸	×	—	不明	26.0	17.2	26.0	9T

砲弾 (第 177 図)

挿図 No.	実測 No.	取上 No.	品名	計測値(mm/g)			備考
				縦	横	重さ	
8	さ21	BL1	底部	73.0	53.0	157.5	9T

その他の遺物—土器・陶磁器類 (第 178 図・第 179 図)

挿図 No.	実測 No.	取上 No.	焼成形態	器種	口径	底径	器高	備考
					※cm, ()内復元値			
1	さ9	—	瓦質土器	播鉢	—	—	—	14~16c 外: 体部ユビ押え・ナデ 内: 一方の播目
2	さ2	—	瓦質土器	捏鉢	—	—	—	2T出土 15c~17c前半 大形品 外: 口縁部横ナデ, 体部ユビ押え 内: ナデ
3	さ8	—	瓦質土器	捏鉢	—	—	—	土師質 15c~17c前半 外: 口縁部横ナデ, 体部ユビ押え・ナデ 内: 横ナデ
4	さ5	—	瓦質土器	捏鉢	—	—	—	4T出土 15c~17c前半 器面剥落 外: 口縁部横ナデ, 体部ユビ押え・ナデ 内: 横ナデ
5	ひ184	—	瓦質土器	鍋	(37.8)	—	—	2T出土 土師質 15c~17c前半 内外面煤?・コゲ?付着 外: 口縁部横ナデ, 頸部ユビ押え, 体部上中位ナデ, 体部下位ヘラケズリ 内: 口縁部横ナデ, 体部ナデ
6	さ6	—	瓦質土器	浅鉢	—	—	3.7	10T出土 15c~17c前半 外: 体部ユビ押え・ナデ, 腰部ヘラケズリ 内: 口縁部横ナデ
7	さ4	—	瓦質土器	小鉢	(11.9)	—	—	4T出土 15c~17c前半 外: 口縁部横ナデ, 体部ヘラケズリ?(磨耗) 内: 横ナデ
8	ひ155	GR3他	瓦質土器	火鉢	—	—	—	同一個体3片(接合せず)が13T土坑出土 16c~17c前半 外: 横ナデ, 菊花形格子形印文, クシ描き波状文 内: 口縁部横ナデ, 体部横・斜位ナデ
9	ひ158	GR12	瓦質土器	火鉢	—	—	—	13T土坑出土 14c~17c前半 外: 横ナデ, 菊花形印文 内: 口縁部横ナデ, 体部斜位ナデ
10	さ7	—	瓦質土器	火鉢	—	—	—	13T出土 14c~17c前半 磨耗 外: 菊花形印文 内: 口縁部横ナデ
11	さ3	—	瓦質土器	香炉	(16.3)	(13.7)	—	2T出土 15c~17c前半 外: 口縁部横ナデ, 体部ユビ押え, 腰部ヘラケズリ 内: 横ナデ
12	ひ157	GR1	陶器	皿	—	—	4.5	13T出土 肥前 1610~1650年代 灰釉(総釉), 内底・疊付砂目跡
13	ひ180	—	磁器染付	碗	(10.1)	—	—	9T出土 肥前 18c前半 文様: コンニャク印判(菊花)
14	ひ181	—	磁器染付	碗	—	(3.8)	—	波佐見くらわんか碗 1820~1860年代 文様: 雪輪草花
15	ひ183	—	陶器	鉢	(20.4)	—	—	2T出土 肥前 18c前半 口唇部(口縁上面): 釉拭取り 外: 体部上位白土刷毛塗り後灰釉, 体部下位鉄漿 内: 体部白土刷毛塗り後灰釉

その他の遺物—煙管・銅製品 (第 177 図・第 179 図)

挿図 No.	実測 No.	取上 No.	品名	計測値		備考
				長さ※mm, (残存長)	重さ※g	
9	す1515	—	銅製煙管	横長(33), 軸最大径9	重さ1.6	9T
16	ひ182	G1	銅製足袋小鉤	横長(12), 最大幅10	重さ0.1	

公園南半部